

しば子先生の 芝生教室



先生：ドライスポットの話から更新作業の話になっただけ・・・

生徒：ダメになった芝地の土壌を更新作業で入れ替えるのは大変な作業だという事がよくわかりました・・・

先生：そのとおりね、12mm のタインで穴をあけて新しい砂をきっちり入れて全面積の4%程度・・・グリーンならまだしもフェアウェーとかの大面積だったら途方もない労力と費用がかかるわね・・・常日頃から土壌分析をしっかりと、余分なものなど入れないことね・・・

生徒：全くその通りですね・・・

先生：ところで大変な労力をかけてグリーンに穴をあけてどんな砂を入れればいいのかしら？

生徒：えっ・・・砂なら何でもいいんじゃないんですか？

先生：あらあら、困ったわね・・・砂なら何でもいいっていうわけじゃないわよ・・・USGA スペックサンドって聞いたことない？

生徒：なんか聞いたことあるかも・・・

先生：USGA はわかるわよね・・・

生徒：United States Golf Association・・・全米ゴルフ場協会ですよ・・・

先生：そのとおり・・・そのUSGA にグリーンセクションと言う部門があって、その研究

結果から推奨するグリーンの構造があるのよ・・・その中にグリーンの床土に使用する砂、つまりルートゾーン

ミック (Root Zone Mix) の推奨砂の粒度分布がこの表なのよ・・・

生徒：さすが USGA ですね・・・ゴルフのプレーやトーナメントだけじゃなくてゴルフ場の管理まで研究してるんですね・・・

先生：そうね、その辺はアメリカ、徹底してるわね・・・

先生：砂の種類だけではなく、床土の構造から造成方法まで推奨があるのよ・・・

生徒：すごいですね・・・

先生：日本のゴルフ場はほとんどこの USGA 方式のグリーン構造で作られていることが多いわね・・・

生徒：そうなんです・・・アメリカではどうなんですか？

先生：すべてのコースが USGA 方式のグリーン構造

USGA 推奨ルートゾーンミックス砂

粒子名	USGA粒子径	推奨粒度分布 (重量)	
細砂利	2.0~3.4mm	この範囲の粒度の合計が10%を超えてはいけない。細い砂利は最大でも3%、無い方が良い。	
大変粗い砂	1.0~2.0mm		
粗い砂	0.5~1.0mm	最低でも60%の粒子がこの範囲に入っていないとばならない	
中庸砂	0.25~0.5mm		
細い砂	0.15~0.25mm	この範囲の粒子は20%以下にしなければならない	
大変細かい砂	0.05~0.15mm	5%以下にする	
シルト	0.002~0.05mm	5%以下にする	この範囲の粒子は合計で10%を超えてはいけない
粘土	0.002mm以下	3%以下にする	

で作られてはいないわね・・・カルフォルニアではカルフォルニア方式と言って暗渠を取らずに地面に直接砂だけを乗せた構造でやっていたり・・・一番多いのはブッシュアップグリーンと言ってただ土を盛って作った盛土のグリーンもあるわ・・・これが一番多いかもしれないわね・・・作るのにコストが安いから・・・

生徒：なるほど・・・雨が少ないところならばそれでもいいんですね・・・

先生：そうなのよ・・・日本のように雨の多いところはやはり USGA 推奨より粗目の粒度分布の砂を選んだ方が絶対にいいわね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

